HAMASHIMA SHIGEO



ベルサイユのばら



フランス革命前半にあたるマリー・アントワネット処刑に至るまでの物語を描いたあまりにも有名な漫画です。
主人公は男装の麗人でアントワネットの護衛軍人であるオスカルと、フランス王妃マリー・アントワネット。

豪華絢爛なベルサイユ宮殿、ドレス、ヘアスタイルの数々はどれもこれも少女の乙女ゴコロをくすぐるものでした。
特にアントワネットの衣装は憧れでした。
宝塚で舞台化されたものを観たときは、夢のようなきらびやかさに感動したものです。
ソフィア・コッポラの映画「マリー・アントワネット」もベルばら好きにはたまらない美しさでした。

やたらオーストリアやフランスの歴史に詳しい女性は、ベルばらからヨーロッパ史に足を突っ込んだ少女漫画ファンとみなしていいでしょう。

がんじがらめの宮廷から解放され
自由に生きたかった少女が辿る悲劇の道。



ベルばらは、かなり何度も復刻・文庫化されているので手に入りやすい名作だと思います。
ペンタッチは太くスッキリとしたディフォルメの絵なので非常にサクサクと読めます。
物語も少女向けに分かりやすく噛み砕かれており、キャラクターも魅力的です。
私もオスカル様に夢中になった一人ですが、大人になって読み返すとアントワネットに感情移入してしまいます。

アニメも非常に良い出来でした。
新作劇場版も制作中らしいので非常に楽しみです。

SWAN
-白鳥-



１５才、バレエが好きなことだけが取り柄の少女がその一生を舞踊という芸術にささげる物語の漫画です。

主人公の真澄は少女漫画のヒロインとは思えないほど、人間臭さを深く掘り下げられていきます。
「上手くなりたい」「上手い人が妬ましい」もがき続ける凡人の葛藤は、読んでいて胸がえぐられるようです。

また確かな知識と絵力で描かれるバレエシーンは画面から音楽や息遣いまで聞こえてきそうな迫力で、バレエそのものへの興味が湧くことと思います。



SWANはバレエ漫画の教科書とまで言われるほどの名作なのですが、私にとってはバイブルといいますか、創作というものに対する姿勢を考えさせられる漫画です。
真澄が天才というものと対峙したときの葛藤、バレエへの愛、弱い自分との向き合い方…何度読んでも涙がこぼれます。
読み返すたび、自分の甘さを思い知り自問自答を繰り返します。

非常に美麗で上手な絵なのですが、男性にはとっつきにくいかもしれません。また、文庫版でも全１４巻という濃厚さです。
それでも創作にたずさわる人なら読んでみて欲しい漫画です。
青臭い、暑苦しい漫画もたまにはいかがでしょうか。

繊細で美しい絵で綴られる、少女に魅せられたもの達の運命。



最終話にあたる「メランコリィの花冠（ティアラ）」というお話は、
ラストにふさわしいお話でとても気に入っています。
プランツを栄養にする幻の寄生植物、その植物の花は咲くと一瞬で
枯れ、少女も枯れてしまう。
そんな花の種を植えられてしまったプランツ。
そして、その花を咲かせることを命じられてしまった男。
プランツの美しさと、二人がはぐくんだ悲しい愛の結末があまりに
甘美でため息が出てしまいます。

あとがき



今回はスケジュールの都合でペラペラの本です。
少女漫画に出てくるファッションが大好きで、そういうイラストを描きたいなーと常々思っていたので少し発散できて嬉しいです。でもページ数も時間も全然足りなかった…残念。
好きな少女漫画やキャラクターが多すぎて！
また同人誌やサイトなどでそういうイラストを描いて発表できればいいなと思ってます。

それでは、お買い上げありがとうございました。

GIRL'S WARDROBE
2012.08.12.

発行　はましま書房
制作　はましま薫夫

Webサイト　http://kokusangyuhorumon.blog111.fc2.com/

印刷　Comflex